

■片岡千恵蔵 <軍国主義>のなか、独立プロをつかって華々しく活躍、<敗戦>後も、{東映}の重鎮スターとして活躍。

かたおかちえぞう

日露戦争始・1904＝ 群馬県生れ。

日露戦争終・1905＝ 1歳：

明治天皇没・1912＝ 8歳：

大正政変・・・1913＝ 9歳：

21ヶ条要求・1915＝11歳：片岡少年劇に入る。

原敬首相暗殺1921＝17歳：

水平社結成・1922＝18歳：

関東大震災・1923＝19歳：\_小笠原映画研究所作品「三色すみれ」に映画初出演(未公開)。

金融恐慌・・・1927＝23歳：\*直木三十五から牧野省三に紹介され、マキノ・プロに入社。片岡千恵蔵の名のもとに連続時代劇「万花地獄」で本格的に映画界へデビュー、時代劇スターとして脚光を浴び、・・・・・・・・

共産党事件・1928＝24歳：\_マキノを退社、片岡千恵蔵プロダクション(千恵プロ)を発足させた。最初の作品「天下太平記」は、脚本伊丹万作、監督稲垣浩で、ともに伊藤大輔紹介の無名の新人である。・・・・・・・・

世界恐慌・・・1929＝25歳：・・・・・・・・京都嵯峨野にスタジオを設立、はなばなしい活躍期に入る。

海軍軍縮条約1930＝26歳：・・・・・・・・

満州事変・・・1931＝27歳：稲垣浩監督「暎の母」・・・・・・・・

五一五事件・1932＝28歳：同「弥太郎笠」伊丹万作監督「国土無双」マキノ正博監督「白夜の饗宴」・・・・・・・・

国際連盟脱退1933＝29歳：伊藤大輔監督「堀田隼人」・・・・・・・・

帝人疑獄事件1934＝30歳：山中貞雄監督「風流活人剣」・・・・・・・・

芥川直木賞始1935＝31歳：・・・・・・・・

二二六事件・1936＝32歳：伊丹万作監督「赤西蛸太」・・・・・・・・、\*10年間に92本の作品を生み出し、映画史に大きな足跡を残す。

日中戦争始・1937＝33歳：・・・・・・・・\_千恵プロを解散、スタッフ、キャスト、従業員全員を伴って日活へ入社。

健保+総動員 1938＝34歳：マキノ正博監督「江戸の花和尚」・・・・・・・・

第二次大戦始1939＝35歳：・・・・・・・・

大政翼賛会・1940＝36歳：稲垣浩監督「宮本武蔵」・・・・・・・・三部作などに主演

日米開戦・・・1941＝37歳：

・・・・・・・・1942＝38歳：・・・・・・戦中戦後の大映、

創価学会検挙1943＝39歳：・・・・

年金+総武装 1944＝40歳：・・・・

敗戦・・・1945＝41歳：・・・・

新憲法公布・1946＝42歳：「七つの顔」にはじまる「多羅尾伴内」シリーズ、・・・・

新憲法施行・1947＝43歳：「金田一耕助」シリーズ、・・・・東横時代を経て、

極東裁判決・1948＝44歳：・・・・・・・・

三大事件・・・1949＝45歳：・・・・

朝鮮戦争始・1950＝46歳：・・・・・・・・

独立回復・・・1951＝47歳：「遠山金四郎」シリーズ、・・・・\*東映の設立に参加、その重鎮スターとして活躍。

マデー事件・1952＝48歳：初の「赤穂城」を含む「忠臣蔵」映画、「新撰組」もの、・・・・・・・・

TV放送始・・・1953＝49歳：渡辺邦男監督の「大菩薩峠」、・・・・・・・・

自衛隊発足・1954＝50歳：・・・・・・・・

55年体制始・1955＝51歳：内田吐夢監督と組んだ「血槍富士」、・・・・・・・・

国連加盟・・・1956＝52歳：「黒田騒動」等々の時代劇のほか、・・・・・・・・

なべ底不況・1957＝53歳：内田吐夢監督で「大菩薩峠」が再びシリーズ化された。・・・・・・・・

イスタントラーメン・1958＝54歳：「奴の拳銃は地獄だぜ」などのギャング映画、・・・・・・・・

美智子妃・・・1959＝55歳：・・・・・・・・

安保闘争・・・1960＝56歳：・・・・・・・・

タイタイ病始・1961＝57歳：・・・・・・・・

全国総合計画1962＝58歳：・・・・・・・・

TV宇宙中継始1963＝59歳：・・・・・・・・

東京リビウツ 1964＝60歳：・・・・\*その千変万化ぶりは東映映画の魅力象徴したが、以後、出演はほとんどなくなる。

大学紛争始・1965＝61歳：・・・・

美濃部都知事1967＝63歳：

全共闘レウカ・1969＝65歳：・・・・

大阪万博・・・1970＝66歳：・・・・

沖縄返還・・・1972＝68歳：・・・・

石油ショック 1973＝69歳：

田中角栄逮捕1976＝72歳：

成田衝突・・・1978＝74歳：・・・・

革新大敗北・1979＝75歳：・・・・

・・・・・・・・1981＝77歳：・・・・

中曽根内閣・1982＝78歳：

デイス・ニラント 1983＝79歳：\_没した。

「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、